

施設状況票【児童発達支援・放課後等デイサービス】記入要領

施設状況票では、施設の概要、利用者の利用状況、職種別の従事者の状況等について、ご報告いただきます。

施設状況票のExcelファイルはマクロを含んでいますので、初めにマクロを有効化してご使用ください。

入力前に「**施設状況票入力にあたってのお願い**」（赤枠①）の内容をご確認ください。また、設問ごとに入力セルの横や項目名の横に注釈（赤枠②）を記載していますので、併せてご参照ください。

施設の状況をご確認の上、入力欄（太枠内）を入力してください。薄いオレンジ色のセルが入力可能なセルです。また、セルのコピーアンドペースト（貼り付け）を使用するとファイルが使用できなくなる場合がありますのでご注意ください。

1. 施設の概要

【事業所番号】

事業所番号（10桁）を入力してください。（赤枠③）

* 事業所番号については、WAMNET「障害福祉サービス等情報検索」にてご確認ください。

【施設の種類】

児童発達支援は「1」、放課後等デイサービスは「2」を選択してください。多機能型事業所として児童発達支援と放課後等デイサービスの定員を分けられる場合は「3」、定員を分けられない場合は「4」を選択してください。（赤枠④）

【期中の開設・廃止等】

期中に開設、休止、廃止、譲渡した場合のみ、選択肢から選んで入力してください。重複する場合は、選択肢の数字が大きいものを優先して入力してください。

（例）期中に開設し、譲渡した場合は、「4」譲渡と入力します。

【入力例】

障害福祉サービス事業【児童発達支援・放課後等デイサービス】施設状況票

[【入力例のPDFはこちら】](#)

S-M

法人名 (個人事業主の場合は氏名)	神谷町福祉会	年度	顧客コード	拠点コード	施設票番号
		2023	99999	001	001

① 施設状況票入力にあたってのお願い

- 施設の状況をご確認の上、入力欄（太枠内）を入力してください。また、入力されている内容が誤っている場合は修正してください。
- 各項目の記入にあたり、指定がない場合は、会計期間末日の状況を入力してください。
- 一つの建物で複数の事業を行っている場合など、事業ごとに按分が必要な場合は各事業で調整してください。また、同じ職員が複数事業で勤務している場合などは、勤務時間や人件費で従事者を按分してください。
- 入力内容について当機構で確認後、作成担当者様にご連絡することがあります。

作成担当者	福祉 花子	電話番号	00-0000-0000	※14桁以内の半角数字とハイフンで入力してください。	FAX番号 (任意)	00-0000-0000
-------	-------	------	--------------	----------------------------	---------------	--------------

1. 施設の概要

施設名	児童発達支援・放課後等デイサービスかみや	事業所番号	1234567890
施設の所在地	郵便番号 105-0000 ※3桁の半角数字とハイフンと4桁の半角数字の郵便番号を入力してください。(例:105-8486) 住所 東京都港区虎ノ門4-3-13		
開設年月日	西暦 2000 年 4 月 1 日	指定管理者の指定	※行政から指定管理者として指定を受けて施設を運営している場合は「1」を入力してください。
土地・建物の所有状況	※次の選択肢からお選びください。(選択肢:[1]法人所有 [2]全て賃借(借地) [3]一部賃借(借地) [4]その他) 土地の所有状況 1 建物の所有状況 1		
公有地等の状況	※土地(建物)の一部に公有地(公設の建物)を含む場合は「1」を入力してください。 公有地の有無 公設の建物の有無		
全面建替の竣工時期	西暦 2010 年 1 月	※開設から全面建替を行っていない場合は空欄にしてください。 また、複数回行われている場合は直近の竣工時期を入力してください。	
地域区分	1 ※障害福祉サービスにおける地域区分について、次の選択肢からお選びください。 (選択肢:[1]1級地 [2]2級地 [3]3級地 [4]4級地 [5]5級地 [6]6級地 [7]7級地 [8]その他)		
会計期間	西暦 2023 年 4 月 1 日 ~ 西暦 2024 年 3 月 31 日		
施設の種類の	④ 3 ※次の選択肢からお選びください。多機能型事業所として児童発達支援と放課後等デイサービスを同じ場所で運営している場合は多機能型をお選びください。(選択肢:[1]児童発達支援 [2]放課後等デイサービス [3]多機能型(定員を分けられる) [4]多機能型(定員を分けられない) 多機能型の報告方法 1 ※「3 多機能型(定員を分けられる)」「4 多機能型(定員を分けられない)」を選択した場合は、次の選択肢からお選びください。(選択肢:[1]この施設状況票にまとめて報告 [2]別の施設状況票にまとめて報告) 入力を省略・まとめて報告する施設状況票の施設票番号 002 ※施設票番号は、別で出力されている児童発達支援・放課後等デイサービスの施設状況票(S-M)の右上に記載されています。		
児童発達支援の類型	1 ※「施設の種類の」にて「1 児童発達支援」「3 多機能型(定員を分けられる)」「4 多機能型(定員を分けられない)」を選択した場合は、障害福祉サービスの講求に用いたサービス類型について、次の選択肢からお選びください。 (選択肢:[1]児童発達支援センター [2]児童発達支援センター以外)		
期中の開設・廃止等	※期中に開設、休止、廃止、譲渡した場合、最も適当なものを次の選択肢からお選びください。 (選択肢:[1]開設 [2]休止 [3]廃止 [4]譲渡) 複数該当する場合は選択肢の番号が大きいものを優先して選択してください。		

2. 利用状況

【定員の変更（年度内）】

年度内に定員を複数回変更した場合は、直近の変更時期を入力してください。

【定員】

【定員の変更（年度内）】にて「1」を入力している場合は、【当初（期首）】に加えて【変更後（期末）】の欄を入力してください。（赤枠⑤）

【利用者数】

1. 施設の概要で選択した【施設の種類の】、【児童発達支援の類型】に対応して延べ利用者数（年間利用日数）の入力セルが変わります。（赤枠⑥）

<延べ利用者数の算出方法>

（例）会計期間中、Aさんが100日利用、Bさんが150日利用 → $100+150=250$ と計算します。

・利用中の外泊や入院等の日数は、延べ利用者数の計算から除外してください。また、同一日中に利用者の入退所が重なった場合、入所と退所の両方を、延べ利用者数の計算に含めてください。

【その他】

【食費（1日あたり）】・【食費を除く実費（1か月あたり）】

運営規程等に定めている場合は規定する金額、定めがない場合は平均的な金額を入力してください。（定めがない場合の計算例）食費（1日あたり）＝会計期間内の食費合計÷年間延べ利用者数

2. 利用状況

【定員】

定員と会計期間内の開所日数（営業日数）を入力してください。開所日数には利用者がいなかった日を含みます。定員、開所日数、利用者数を入力すると、区分ごと利用率が計算されます。

区分	定員		定員の変更(年度内)										開所日数	(参考) 利用率
	当初 (期首)	変更後 (期末)	※年度内に定員を変更した場合は「1」を入力し、右欄に変更した時期を入力してください。年度内に複数回変更した場合は、直近の変更時期を入力してください。											
児童発達支援	⑤	20	18	定員の変更の有無	1	変更時期	西暦	2022	年	10	月	260	77.7%	
放課後等デイサービス		20	15		1		西暦	2022	年	10	月	294	65.5%	
多機能型(定員を分けられない)							西暦		年		月		0.0%	

【利用者数】

サービスごとに延べ利用者数（年間利用日数）を入力してください。

＜児童発達支援＞		児童発達支援センター			児童発達支援センター以外			共生型	基準該当		計
		障害児	難聴児	重症心身 障害児	障害児		重症心身 障害児				
					未就学児	左記以外					
医療的 ケア区分	3	850									4,040
	2	2,040									
	1	1,150									
	なし										

<放課後等デイサービス>

		授業終了後								休業日						計
		障害児 (重症心身障害児を除く。)		重症心身 障害児	共生型	基準該当		障害児 (重症心身障 害児を除く。)	重症心身 障害児	共生型	基準該当					
		区分1 (3時間以上)	区分2 (3時間未満)			(Ⅰ)	(Ⅱ)				(Ⅰ)	(Ⅱ)				
医療 的 ケ ア 区 分	3	300	200					50						3850		
	2	500	400					100								
	1	100	50					20								
	なし	800	1200					130								

【施設に特徴的な項目】

年度末（決算月末）における利用契約者数（実人数）	児童発達支援	18人	放課後等デイサービス	16人
年度末（決算月間）における利用者数（実人数）		18人		14人
連携先の件数	学校	3か所	特別支援学校	1か所
※関係機関連携加算の有無ではなく、事業所が提携先を把握している学校の数を入力してください。				

【その他】

障害福祉サービス費以外の費用負担 (利用者1人あたり) ※運営規程等で定められていない場合は 平均的な金額を入力してください。	児童発達支援		食費(1日あたり)	300円	食費を除く実費 (1か月あたり)	1,000円
	放課後等 デイサービス	授業終了後にサービスを行う場合		850円		150円
		休業日にサービスを行う場合		円		円
		長期休暇時にサービスを行う場合		950円		150円
施設の取り組み(自由記述)	※当該施設について特徴的な取り組み(従事者確保、利用者確保、提供サービスや運営面の工夫、費用削減等)がある場合は教えてください。					

3. 加算等の状況

会計期間内に算定した実績があるもの全てに「1」を入力してください。加算を算定していない場合は、[加算の算定なし]に「1」を入力してください。プルダウンによる入力も可能です。

4. 従事者の状況

10月1日時点の状況を入力してください。会計期間内に10月1日が無い場合は、期末の人数を用いてください。

複数施設（事業）で勤務している、または同一施設（事業）で複数の職種を兼任している職員がいる場合は、従事者の重複が生じないよう、勤務時間や人件費等を用いて按分します（詳細は別欄の「従事者の按分について」をご覧ください）。

【医師】
嘱託医は含めません。

【調理員】
給食業務を委託している場合（調理員が委託業者の従事者）は空欄にしてください。（赤枠⑦）

5. 委託の状況

業務委託を利用しているもの全てに「1」を入力してください。業務委託を利用していない場合は【委託なし】に「1」を入力してください。

【給食業務（全面委託）】・【給食業務（一部委託）】
献立作成や食材の仕入れ等、給食業務の全てを委託している場合は【給食業務（全面委託）】を選択してください。調理員が委託業者の従事者の場合は、4. 従事者の状況の【調理員】が空欄となっていることを確認してください。（赤枠⑦）

【労務管理】
給与計算、勤怠管理、就業規則の作成等の業務を委託している場合が該当します。

【会計・請求】
決算業務、介護給付費等の請求等の業務を委託している場合が該当します。

3. 加算等の状況

加算の算定状況について伺います。会計期間内に算定した実績があるもの全てに「1」を入力してください（プルダウンによる入力も可能）。

加算の算定なし	※加算を算定していない場合は、「加算の算定なし」をお選びください。							
人工内耳装用児支援加算	児童指導員等加配加算	1	専門的支援加算	1	看護職員加配加算（Ⅰ）	1	看護職員加配加算（Ⅱ）	
共生型サービス体制強化加算	家庭連携加算（1時間未満）		家庭連携加算（1時間以上）		事業所内相談支援加算（Ⅰ）		事業所内相談支援加算（Ⅱ）	
食事提供加算（Ⅰ）	食事提供加算（Ⅱ）		利用者負担上限額管理加算		福祉専門職員配置等加算（Ⅰ）		福祉専門職員配置等加算（Ⅱ）	
福祉専門職員配置等加算（Ⅲ）	栄養士配置加算（Ⅰ）		栄養士配置加算（Ⅱ）		欠席時対応加算	1	特別支援加算	
強度行動障害児支援加算	個別サポート加算（Ⅰ）		個別サポート加算（Ⅱ）		医療連携体制加算（Ⅰ）		医療連携体制加算（Ⅱ）	
医療連携体制加算（Ⅲ）	1	医療連携体制加算（Ⅳ）		医療連携体制加算（Ⅴ）		医療連携体制加算（Ⅵ）		医療連携体制加算（Ⅶ）
送迎加算	延長支援加算（1時間未満）	1	延長支援加算（1時間以上2時間未満）		延長支援加算（2時間以上）		関係機関連携加算（Ⅰ）	
関係機関連携加算（Ⅱ）	保育・教育等移行支援加算		福祉・介護職員処遇改善加算（Ⅰ）		福祉・介護職員処遇改善加算（Ⅱ）		福祉・介護職員処遇改善加算（Ⅲ）	
福祉・介護職員処遇改善特別加算	福祉・介護職員等特定処遇改善加算（Ⅰ）		福祉・介護職員等特定処遇改善加算（Ⅱ）		福祉・介護職員等ベースアップ等支援加算			

4. 従事者の状況

従事者の状況について伺います。会計期間内の10月1日時点の状況を入力してください（小数点第一位まで）。派遣職員等の常勤換算には業務委託による従事者を含みます。

主 な 職 種 の 内 訳	常勤職員 (a)	非常勤職員等の 常勤換算 (b)	派遣職員等の 常勤換算 (c)	合 計 (a)+(b)+(c)	主 な 職 種 の 内 訳	常勤職員 (a)	非常勤職員等の 常勤換算 (b)	派遣職員等の 常勤換算 (c)	合 計 (a)+(b)+(c)
管 理 者	0.7			0.7	手 話 通 訳 士 及 び 手 話 通 訳 者				0.0
児 童 発 達 支 援 管 理 責 任 者	2.0			2.0	機 能 訓 練 担 当 職 員				0.0
医 師 (嘱 託 医 は 除 く)	0.3	0.5		0.8	言 語 聴 覚 士				0.0
看 護 師 等				0.0	栄 養 士				0.0
(児 童) 指 導 員	11.3	2.8		14.1	調 理 員				0.0
保 育 士	2.6	1.7		4.3	そ の 他				0.0
					合 計	16.9	5.0	0.0	21.9

5. 委託の状況

委託の状況について伺います。該当するもの全てに「1」を入力してください（プルダウンによる入力も可能）。業務委託を利用していない場合は、「委託なし」にのみ「1」を入力してください。

給食業務 (全面委託)	1	給食業務 (一部委託)		清掃		洗濯		送迎		宿直	
労務管理		会計・請求		その他		委託なし					

注)「労務管理」は、給与計算、勤怠管理、就業規則の作成等の業務を委託している場合、「会計・請求」は決算業務、介護給付費の請求等の業務を委託している場合が該当します。

従事者の按分について

1 週間あたりの総勤務時間を分母とし、各施設の総勤務時間を分子として勤務時間の按分を行います。

例：Aさん（1 週間あたりの総勤務時間40時間）が、①特別養護老人ホーム（28時間）、②認知症高齢者グループホーム（8 時間）、③通所介護（4 時間）の【施設長】（管理者）を兼務していた場合。

⇒特別養護老人ホームの28時間 ÷ 1 週間あたりの総労働時間40時間 = 0.7 から、特別養護老人ホームの【施設長】は0.7になります。

【社会福祉法人以外の方は 6. 決算の状況を作成してください】

6. 決算の状況

・金額は円単位で入力してください。

○事業活動の状況

- ・施設別の決算を作成していない場合であっても、費用の按分等を行い入力してください。
- ・人件費には役員報酬、派遣職員に支払う報酬・諸手当を含みます。
- ・職員給料は常勤職員に支払う報酬・諸手当を入力してください。

○貸借の状況

- ・施設別の貸借対照表・試算表を作成していない（資産・負債を把握していない）場合は、**【施設別の貸借対照表を作成していない】**に「1」を入力してください。（赤枠⑧）
- ・「流動資産」+「固定資産」=「流動負債」+「固定負債」+「純資産の部」となるように入力してください。
- ・科目の額と科目の内書き部分「（うち○○）」の合計は一致しないことがあります。

○資金収支の状況

- ・「借入金元金償還金支出」は、全ての金融機関等（機構を含む）からの設備資金借入金に対する年間返済額を入力してください。利息部分や繰上返済は含みません。
- ・借入金元金償還金支出が発生していない（返済が無い場合）は0を入力してください。
- ・リース会計を導入している場合は、ファイナンスリース債務の返済支出を含めてください。

* 勘定科目については次頁以降で説明しています。

6. 決算の状況

施設別の貸借対照表を作成していない ☐ ※施設別の貸借対照表・試算表を作成していない（資産・負債を把握していない）場合は「1」を入力してください（プルダウンによる入力も可能）。

事業活動の状況	事業収益・・・①	51,798,454	貸借の状況	流動資産	34,567,890
	就労支援事業収益	0		（うち現預金）	9,826,540
	障害福祉サービス等事業収益	51,798,454		（うち未収金・売掛金/未収補助金・未収収益・受取手形）	22,110,500
	自立支援給付費収益	0		（うち貯蔵品等の棚卸資産）	0
	障害児施設給付費収益	47,854,987		固定資産	10,288,760
	利用者負担金収益	2,654,300		（うち土地）	0
	その他の事業収益	1,289,167		（うち建物）	9,861,020
	寄付金・助成金	0		資産合計	44,856,650
	上記以外の事業収益	0		流動負債	9,955,760
	事業費用・・・②	51,256,361		（うち買掛金、未払金、支払手形等）	0
	就労支援事業費用	0		（うち短期借入金）	6,021,020
	人件費	29,543,210		（うち1年以内返済予定の長期借入金）	890,200
	役員報酬	1,000,000		（うち1年以内返済予定リース債務）	0
	職員給料	28,543,210		固定負債	30,277,000
	その他の人件費	0		（うち長期借入金）	20,188,000
	経費	12,655,311		（うちリース債務）	0
	給食費	0		負債合計	40,232,760
	水道光熱費	1,239,167		純資産の部合計	4,623,890
	業務委託費	6,840,250		負債・純資産合計	44,856,650
	修繕費	120,234		資金収支の状況	
	地代家賃	2,350,020		借入金元金償還金支出	890,200
	その他の経費	2,105,640			
	減価償却費	4,800,240			
	上記以外の事業費用	4,257,600			
	事業利益③(①-②)	542,093			
	事業外収益・・・④	0			
	事業外費用・・・⑤	15,020			
	（うち支払利息）	15,020			
	事業外利益⑥(④-⑤)	-15,020			
	経常利益⑦(③+⑥)	527,073			
	特別利益・・・⑧	0			
	特別損失・・・⑨	0			
	税引前当期純利益・・・⑩(⑦+⑧-⑨)	527,073			
	法人税、住民税及び事業税・・・⑪	0			
	当期純利益⑫(⑩-⑪)	527,073			

【決算の状況の入力に関して】

- ・施設別の決算書、試算表等を基に円単位で作成してください。
- ・事業活動の状況については、施設別の決算を作成していない場合であっても、費用の按分等を行い入力してください。

○事業活動の状況

- ・「職員給料」には職員に支払う給与全額（常勤職員給与、非常勤職員給与、職員賞与、派遣職員費等）が該当し、「その他の人件費」には法定福利費、退職給付費等が該当します。

○貸借の状況

- ・「流動資産」+「固定資産」=「流動負債」+「固定負債」+「純資産の部」となるように入力してください。
- ・科目の額と科目の内書き部分「（うち○○）」の合計は一致しないことがあります。
- ・施設別に資産・負債の状況を把握していない場合は、【施設別の貸借対照表を作成していない】に「1」を入力してください。

○資金収支の状況

- ・「借入金元金償還金支出」は、全ての金融機関等（機構を含む）からの設備資金借入金に対する年間返済額を入力してください。利息部分や繰上返済は含みません。
- ・借入金元金償還金支出が発生していない（返済が無い場合）は0を入力してください。
- ・リース会計を導入している場合は、ファイナンスリース債務の返済支出を含めてください。

勘定科目の説明①－障害福祉サービス－

- (ご利用上の留意点)
- ・ 「決算の状況」の入力に関しては、施設別の決算書や試算表等を基に入力します。本資料は、決算書や試算表等に用いられる勘定科目を施設状況票のどの科目に入力すればよいかを参考として示したものです。
 - ・ 社会福祉法人会計基準を基に整理しています。決算書の作成に際して適用している会計基準が異なる場合は、説明欄を参考にして最も実態に合っている科目に入力してください。
 - ・ 決算書や試算表等で用いる勘定科目が複数の科目に該当するが、正確に分けることができない場合は、できるだけ実態に合うように按分してください（例：「職員給料」と「役員報酬」が分かれていない（税務資料等からも確認できない）→業務の時間や責任等から按分します）。

施設状況票の科目	説明（決算書・試算表等の勘定科目）
事業収益	
就労支援事業収益	就労支援事業における収益
障害福祉サービス等事業収益	
自立支援給付費収益	障害者総合福祉法に基づくサービスの提供にかかる収益 （例：介護給付費収益、訓練等給付費収益 等）※地域生活支援事業を除く
障害児施設給付費収益	児童福祉法に基づくサービスの提供にかかる収益
利用者負担金収益	各給付費にかかる利用者の負担による収益
その他の事業収益	上記の科目に属さない介護保険事業収益
寄付金・助成金	個人・法人からの寄付金、国や地方公共団体からの助成金等
上記以外の事業収益	上記の科目に属さない事業収益（例：医療事業収益）

施設状況票の科目	説明（決算書・試算表等の勘定科目）
事業費用	
就労支援事業費用	就労支援事業における費用
人件費	役員報酬 職員給料 その他の人件費
経費	給食費 水道光熱費 業務委託費 修繕費 地代家賃 その他の経費
減価償却費	建物、機器備品等の減価償却の額
上記以外の事業費用	上記の科目に属さない事業費用（例：医療事業費用）
事業外収益	借入金利息補助金収益（施設整備に対する借入金利息に係る補助金）、受取利息・配当金収益、有価証券売却益・評価益 等
事業外費用	支払利息、有価証券売却損・評価損 等
	（うち支払利息）
特別利益	固定資産売却益、引当金による戻入益、前期損益修正益 等
特別損失	固定資産売却損・処分損、事業区分間繰入金費用 等
法人税、住民税及び事業税	会計期間にかかる法人税、住民税及び事業税（利益に関連する金額を課税標準として課される事業税）

勘定科目の説明②ー障害福祉サービスー

施設状況票の科目	説明（決算書・試算表等の勘定科目）
流動資産	現金預金、未収金、製品、貯蔵品、売買目的有価証券、短期貸付金、仮払金、貸倒引当金[マイナス計上] 等
（うち現預金）	現金、預金、その他現金同等物 （例：現金、小口現金、当座預金、普通預金、定期預金、郵便貯金、金銭信託等）
（うち売掛金、未収金、未収収益等）	事業未収金などの未収入金 （例：事業未収金、売掛金、未収金、未収補助金、未収収益、受取手形）
（うち貯蔵品等の棚卸資産）	事業活動のために短期間で消費される資産 （例：貯蔵品、医薬品、診療・介護・保育材料、給食用材料、消耗品、消耗器具備品、商品・製品、原材料）
固定資産	土地、建物、構築物、機械及び装置、車輛運搬具、器具及び備品、建設仮勘定、権利、ソフトウェア、リース資産、投資有価証券、長期貸付金、退職積立金、保証金、敷金、繰延資産 等
（うち土地）	当該事業に使用している土地
（うち建物）	当該事業に使用している建物・建物附属設備

施設状況票の科目	説明（決算書・試算表等の勘定科目）
流動負債	買掛金、事業未払金、未払金、短期借入金、支払手形、未払費用、預り金、仮受金、賞与引当金 等
（うち買掛金、未払金、支払手形等）	買掛金、事業未払金、未払金、支払手形、未払費用等
（うち短期借入金）	短期借入金
（うち1年以内返済予定の長期借入金）	金融機関、機構、役員などからの借入金のうち、1年以内に返済予定の長期借入金 （例：1年以内返済予定設備資金借入金、1年以内返済予定長期運営資金借入金）
（うち1年以内返済予定リース債務）	リース債務（貸借対照表日の翌日から起算して1年以内に支払の期限が到来するもの）
固定負債	長期借入金、リース債務、退職給付引当金、役員退職慰労引当金、長期未払金、長期預り金 等
（うち長期借入金）	金融機関、機構、役員などからの借入金のうち、当初の契約において1年を超えて返済期限が到来するもの （例：設備資金借入金、長期運営資金借入金、役員等長期借入金）
（うちリース債務）	リース債務（貸借対照表日の翌日から起算して支払の期限が1年を超えて到来するもの）
純資産の部合計	基本金、資本、資本金、組合員出資金、資本準備金、資本剰余金、利益準備金、利益剰余金、任意積立金、繰越利益剰余金、自己株式 等

施設状況票の科目	説明（決算書・試算表等の勘定科目）
資金収支の状況	※資金収支計算書、キャッシュフロー計算書等の1年間の資金（現金）の動きが分かる書類を作成していない場合は、償還約定表（返済予定表）や通帳等から計算してください。
借入金元金償還金支出	当該施設に係る建築や設備に対する長期借入金の元金返済額 ※当機構の他、他の金融機関等への返済額を含む